

# 新体制で想いを新たに

# 同窓新報

題字・故 上野慧賢先生  
発行所 駒澤大学高等学校  
同窓会  
正会員数 21933名  
東京都世田谷区上用賀1丁目  
〒158-8577 TEL.3700-6131代  
FAX.3708-7291  
振替口座 0018-6-61881  
http://www.komazawa.net  
E-mail:dosokai@komazawa.net

## 「助成、情報、協同」

## を柱にして

会長 田上 太秀



長の名前が刻まれることになり、同窓生の皆様にこの吉報をお伝えし、ともに喜びを分かちたいと思います。

さて、同窓会は平成三年に創立四十周年記念総会を開催しており、もうすぐ五十五周年を迎えます。五十五周年記念総会を開催する準備段階に入っています。この記念総会には同窓生全員のご参加を希望しております。

同窓会の活動はこの学校でもありますが、わが同窓会のように活発な活動をしているところは決して多くはないと考えます。

わが母校は目を見張るほど発展しています。建物も設備も教育内容も充実して、優れた卒業生を世に輩出しています。また、スポーツや文化の各方面での生徒達の活躍は全国的にみても顕著です。

このような母校の発展と活動に刺戟されて、母校の動きを傍観するのではなく、積極的に参加するような形で援助の手を、これまで秋山相談役と大谷名譽

会長のもとで同窓会は微力ながら差し延べ、助成活動をしてきました。二万人を越す同窓生が協同して、母校のために尽力を惜しまなければ、母校はさらに飛躍的に発展するでしょうし、それが同窓生の社会的活動にも少なからず有益となるのではないのでしょうか。

同窓会名簿が平成七年に初めて刊行されました。実はこの年に男女共学が移行されたために、この名簿には女子の卒業生の名前が掲載されていません。周知のように母校は開校の時から男女共学であったので、元の学制に戻ったに過ぎませんが、移行後の女子同窓生の名前が名簿にないのが残念です。

「同窓新報」掲載の新役員人事にある通り、現在、すでに同窓会に女性役員が誕生しています。

女性の同窓生を掲載した新しい同窓会名簿の発行が急務です。「同窓新報」に同窓生の情報を掲載したいと編集委員会が鋭意編集に取り組んでいます。

どうか活動状況や母校の生徒に刺戟となる知識や情報を教えてください。

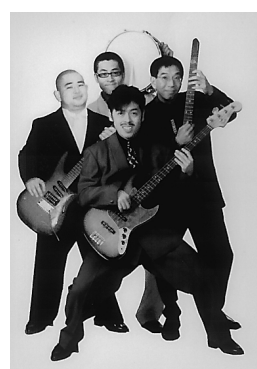
同窓会は母校の生徒の教育やスポーツにおける活動を通して伝えることも最大の活動と考えています。この目標と活動を運営するには、同窓生諸氏の協同する心と、その意識の高揚が必要不可欠です。

同窓会の活動にご理解くださり、ご協力をお願いいたします。

第四期生  
(駒澤大学仏教学部教授)



一九九四年結成。全国各地で様々なステージにたち観衆を沸かせている四人組「音楽と笑い」で成り立つ楽しさを追求している。日本では数少ない「メンバー全員が活躍」するバラエティシヨウバンドとして活動している。



前列中央：ポール吉田(吉田慈)氏

様に大いに生徒を楽しませてくれる事だろう。  
なお、ベースボール担当のポール吉田(吉田慈)は三

十八期D組・昭和六十三年の卒業生である。  
同窓生の応援、ご来場をお願い致します。

## 駒大高祭 文化公演会

11月2日・日曜日  
10時・開会

…コミックバンド…  
**大爆コンサート笑**

### 出演者

**バンバン G**  
ばんさんや(リーダー)  
ポール吉田(38期・昭和63年卒)  
吉田 慈  
モニョール・マキョート  
のちむねわたる

場所：駒澤大学高等学校・新体育館  
主催：駒澤大学高等学校同窓会  
同窓生のご来場もお待ちしております

## 充実を目指して

名譽会長 大谷 康 憲



会員各位の皆様にはその後益々御清福のこととお慶び申し上げます。この度同窓会の規約により名譽会長に就任することになりました。私会長に就任して早十年の歳月が経過しました

がこの間会員各位をはじめとして役員の皆様方のお力に依って大過なく責務を果すことが出来ましたことを衷心より感謝申し上げます。

思えば会長就任中平成七年六月に同窓会四十五周年記念総会

を母校新講堂兼体育館に於いて開催されこの時は落慶を祝して同窓会より講堂正面の本尊様の仏具一式を贈呈し大変意義ある総会ができたと確信いたしております。又平成十二年六月には同窓会五十年記念総会を新宿セントury・ハイアットにおいて開催され、この時は予定通りの参加者があり会場せまじと大変賑わいました。過去五十年にわたる輝かしい同窓会の歴史の中にあつて、少なくともその中で青春を送った人ならば年の差は問わず、大きな感激をもたれたのではないのでしょうか。大勢の先輩、後輩諸氏が一堂に会し交流しあの当時の苦楽を経験したことを思い出しながら語り合いの光景がいたるところで見ら

れ私はこのことに依つて会員同志の疎通を計り同窓会の充実発展があると確信しました。そして時代の変遷にともなう様々な影響をうけつつも連綿とつづいているのが同窓会の実体であると思ひます。そして伝統と歴史をもつ我が母校を心のふるさととして愛し、同窓会の火を消すな、の言葉を心の支えとして皆さん頑張るうちはありませんか。いずれの記念総会も準備委員の皆様方をはじめ会員同志の格別の御協力と御理解によって無事円成することができました。あらためて御礼を申し上げます。同窓新報は会員の動向や母校の様子を明確にするため重要な役割を担っているわけですので今後は益々充実させて頂き会員の御協力はもとより編集委員の皆様方の活躍に期待いたしたいと思ひます。今後は田上太秀会長を中心に新しい体制の下での同窓会の発展を御祈念申し上げます。

第三期生(東光寺住職)







# 永年勤続ご苦労様

## 四十年勤続

教諭 広谷 五郎



「今にして思えば」

あつという間の四十年

同窓生の皆様お元気ですか。私も昭和三十八年四月に奉職して今年で四十一年目を迎えようとしています。この間クラスの生徒の事は当然忘れる事は出来ないが、バレーボール部の教え子については何にもまして忘れる事が出来ません。昭和四十、五十年代と私の血気盛んな時期に無理難題を押し付けたが善くそれにめげずについて来てくれました。その生徒達も今は、それぞれの職域に於いてほとんどの人達が中心的な役割を荷つています。お世辞にも勉強は良く出来たとはいえませんが、スポーツを通して鍛えた健全な精神と肉体は特筆すべきものがありました。その事が現在のそれぞれの立場に於いて生かされている事だと思います。質実剛健の男子校から共学に移行して早や九年目になりましたが、やんちゃな生徒達がいた男子校時代が懐しく思えてなりません。

が常に健康に留意され、益々社会に寄与される事を願っております。そしてたまには駒大高にお立ち寄りください。お待ちしております。

(保健体育科)

## 三十年勤続

教諭 山海 俊範



「日々邁進」

三十年の教員生活は、偶然から始まり、影響を受けた人々との出会いや多くの幸運に恵まれ、ここに至っている。思えば、世紀の変わり目、それもミレニアムを迎えることができたのも、なんと、ラッキーなこと(いろいろな意味で、良い時代状況の中、教員生活を送ることができた)だったことか。

二十世紀は、民衆主義が根付き、市民の権利が尊重され、科学技術が発達して、日本でも、その最後の四半世紀にはそれらの恩恵を十分享受できたのでは。私の子供の頃は、夢の世界であった「もの」のあふれる社会となった。それを可能にしたのは、二十世紀に起きた前述の三つのこと、その基盤となっている。電話を例にとってみると、一九六〇年に十万台であった

のが、一九六八年には一千万台、一九八一年には四千万台を越え、ほぼ各家庭に一台、家庭電化製品やファックスやポケベルやパソコンを経て、携帯電話にいたり、今やテレビ・ラジオもパソコンも携帯電話も一人一台の時代である。極めて短い期間に、一般大衆に普及するものが続出している。それを支える科学技術の進歩には目を見張るものがある。

この三十年間の教員生活でも、それらの多大な恩恵を受けてきている。印刷を例にとっても、分かるように、鉄筆・ガリ版から現在使用の放電式で原紙を切る方式まで、幾多の技術革新を経て、コピーより性能の良い印刷機が、教育活動を支えてくれている。生徒の学校生活をみて、生徒一人一人を大切にしている。二十世紀は、少しずつ、確実に、情報通信技術の革命が、進んできたわけであるが、ここ数年の変化は大きい。インターネットのインフラが整備し、ICT(情報通信技術)革命が一気に進んで、二十一世紀に突入している。社会の仕組みを根底から変え、社会が求める「教育」のあり方も、言わずもがな、こうした時代背景の影響を受け、新たな目標が設定され、「確かな学力」を求めて、いろいろな施策がなされている。こうした時に、本校教員として新たな取り組みができる幸せを、全身で感じている。何方かが、仰るように、「教育は大きな転換点にいる。」、時同じくして、本校も新たな駒大高校を目指して進もう

としていて。時代状況を正しく捉え、より多くの人々から評価される学校へむけて、動こうとしている。学校教育は、生徒・保護者・教員が三位一体となつて、創り上げていくもの。だと思ふ。この千載一遇の機会に、微力ではあるが、尽力し、これから先の教員人生を充実させたいものである。老いてこそ、教員、しなやかに、したたかに、日々邁進したいと願う日々である。

(理科)

教諭 高木 恒一



「変革期に際し」

母校を卒業し母校で教えることの喜びを、数多くの先輩・同僚・後輩に支えられて三十年もつづけてこれました。ありがとございました。そして、この間に教室で出会った、輝いていた生徒たちにも感謝したい。

## 十年勤続

教諭 鈴木 純行



「最良の出会い」

人は一人では生きて行けない。私自身、多くの人々のおかげで生かされている。本校奉職以来、多くの良縁に恵まれた。その一つ一つの出会いがかけがえのないものとなっている。生徒に教授する立場でありながら生徒から多くの事を学んだ。学生時代から永平寺修行、現在に至るまで、

このたびは同窓会より勤続

「教員生活三十年」

教諭 久保田 實

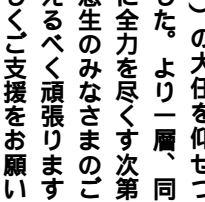


「みんな行くぞ。偶然出会う場所は、東銀座駅改札に一時。無許可で、生徒有志を歌舞伎に連れて行った。熱い二十代の教師だった。教育も学問も遊びも、寝るのも惜しんで夢中になった。三十代は、大学推薦問題や学力問題で学内が揺れた。駒澤大学の教授との激論、そして高校改革の企画・立案・説得と、寝れない課題に苦しんだ。四十代に出会ったコンピュータ。教育も学問もこれで変わるとのめり込む。カタカタカタ、知らないうちに朝がくる。大きなあくびをして、ふと

この「駒澤」で得た出会いが今の私を支えている。我家は三世代「駒澤」出身である。駒澤の伝統を次世代に伝える重要な役割の中で、精一杯報恩感謝の営みを実践して行きたい。勤続十年を機に新たな最良の出会いを大切にしたい。邁進して行きたい。

(十六期・地歴科)

教諭 小林 明子



「十年の思い」

このたびは同窓会より勤続

(宗教科)

教諭 新羅 朱美



教諭 新羅 朱美

「勤続十年 改革の時代へ」

平成五年に教諭として採用され今年で十一年目を迎える。その間、男女共学への移行、新体育館の落成と大きな出来事が続いた。今も生徒達との日々があるのは多くの先生、卒業生、保護者の方々の支えがあったからと感謝、感謝である。家庭科の授業、クラスの担任、生活指導では頭髪指導等々、山積する仕事への気持ちを奮い立たせてくれたのは

振り返ると、三十年が過ぎた。

(国語科)

教諭 涌井 清



教諭 吉野 信行

## 二十年勤続

教諭 吉野 信行



(三十八期・国語科)



生徒達の存在だった。今年から新カリキュラムの下、駒大高校は大きく変わるうとして。改革元年、私も初心に帰り、生徒達と共に成長して行きたいと思っ

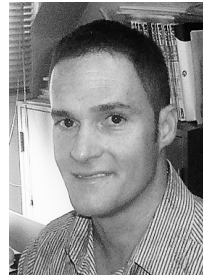
(家庭科)

講師 宮林 稔



十年なんて早いものです。こんなに長く駒大高に居ることになるとは思ってもみませんでした。

「駒澤大学高等学校と私」



講師

アンソニー フェントン

十年前、南極観測隊に参加することが決まっていたながら、教師になる方を選んでしまったのはなぜだろうと、今でもふと考えるときがあります。

私が、憧れと夢を抱いてカナダから来日して、早くも三年が経とうとしています。駒澤大学高等学校の教職に就いてからは、十年。まさに光陰矢の如しと言った風です。

# ようこそ駒大高に

常勤講師 鎌田 憲 征  
駒澤大学文学部国文学科卒



駒大高校同窓生の皆様こんにちは。今年度、国語科常勤講師として採用いただきました鎌田憲征と申します。一昨

はより生徒と接する機会が増え、教職に携わる喜びを感じております。子供にとっての高校時代とは何にも代え難い人生の財産です。またその青春時代に彼らと密接に関わる事のできる我々は幸せであると同時に重要な使命を背負っていると考

の思いも、次々と込み上げて来ます。私にとつての日本での思い出は、そのまま駒澤大学高等学校でのものと言つても過言ではないような気がします。

生徒たちが毎年、遅く成長し巣立つて行く姿を見送ることは、私にとつて何事にも代えられない喜びの一つですが、それは教育に携わる者としての責任を強く意識し、認識する一時でもあります。

私が、憧れと夢を抱いてカナダから来日して、早くも三年が経とうとしています。駒澤大学高等学校の教職に就いてからは、十年。まさに光陰矢の如しと言った風です。

また、駒澤大学高等学校は彼らが自分の青春時代を顧みたり、心の底から誇れる学校(母校)を目指します。御指導・御鞭撻よろしくお願致します。

(国語科)

常勤講師 加藤 寛 隆  
駒澤大学仏教学部仏教学科卒



「人生に無駄はない。」私が生徒を前にして最初に

私にとつて、日本文化を学ぶ最適な場所でもあります。豊かな伝統に育まれた校風はとも魅力的で、日本の礼儀作法など、カナダでも取り入れて行くべきだと思つて居る山あります。その一方、カナダ人である私は、その恩返しと言つと語弊があるかもしれ

ませんが、語学としての英語教育に留まらず、これからも西洋文化を少しでも多く伝えて行きたいと思つています。中でもバンクーバーでの夏期研修などは、今後国際的な活躍が期待される生徒たちにとつて、異文化に触れる絶好のチャンスなので、出来るだけ多くのことを感じて学んで欲しいと願つて居る生徒たちにとつて参加して居ます。

今回は、十年という節目に自分を振り返る良い時間が持てました。これからも、情性に流されることなく絶えず自分自身を磨き続けることを忘れずに、生徒と共に成長して行きたいと思つています。

また、駒澤大学高等学校は彼らが自分の青春時代を顧みたり、心の底から誇れる学校(母校)を目指します。御指導・御鞭撻よろしくお願致します。

(英語科)

常勤講師 加藤 寛 隆  
駒澤大学仏教学部仏教学科卒

「人生に無駄はない。」私が生徒を前にして最初に

思つています。このご縁に感謝して。(四十七期・宗教科)

書記補 冨 樫 大 介  
駒澤大学経営学部経営学科卒



私は事務職として働いてます。仕事は日々の雑用から会計まで幅広く、毎日何かこなしているといった感じ

非常に、駒澤大学が良くなるよう努力していきたいと思つています。(事務職員)



非常勤講師 滝 脇 修 司  
早稲田大学大学院教育学研究科在学中

本年度より、国語科の非常勤講師として勤務しております。滝脇修司と申します。現在、早稲田大学大学院教育学研究科に籍を置いており、大学院における研究の成果を、現場に還元できるように努めて、教壇に立っています。

にあると考へ、明確な学習目標を提示しつつ授業を展開していくよう日々心掛けています。今後とも精一杯生徒を支援して参りますので、何卒宜しくお願い致します。

(国語科)



非常勤講師 佐 藤 健 二  
駒澤大学大学院人文科学研究科卒

実際に教壇に立つと、教えることの責任の重さや授業作りの難しさなどを実感する。頭を悩ませることもしばしばだが、そのようなとき日々の活力を与えてくれるのは、やはり生徒たちである。打てば響く彼らとともに時を過ごせることよるこびは、何物にも変えがたい。また、教師として未熟な私を支えてくださる他の先生方にも感謝を禁じえない。本校のさらなる発展に資することができるよう努力していきたいと強く思う。

皆さん初めまして、私は今年度から駒大高校数学科に於いて主に三年生の授業を担当させて頂きます浅野と申します。私は昨年度まで筑波大学に於いて大学院生活と中学高校にて数学教育を実践し三年目を迎えます。と言いましても私自身まだまだ自己研鑽の日々であります。私が最初に抱いた、皆さんの印象はとも

(国語科)

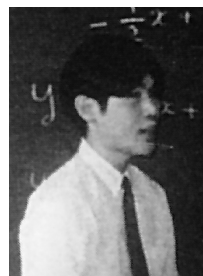
非常勤講師 杉 本 千 草  
白百合女子大学文学部国語国文学科卒・東京学芸大学大学院教育学研究科在学中



駒大高校に勤め始めて数ヶ月、幼い頃からよく遊んだ馬事公苑の隣りにあり、身近で

懐かしい思いを抱いて通う毎日です。また、とても多くの生徒の爽やかな挨拶が私の元気の源になっています。日々の授業では、自己表現する言葉を持ち、物事をしっかりと判断・批評する目を育てていくよう、努力していきたいと思つています。

(国語科)



非常勤講師 浅 野 賢 二  
筑波大学大学院教育研究科卒

また部活動を通して、勉学その他に於いても自分自身を磨いている事を発見しました。駒大と言えは駒大大会をよく耳に致しますが、駒大高校もやはり部活動が盛んであり、野球部の全国大会出場も記憶に新しいです。私自身も部活動のお陰で、何か試練に当たった時には、練習の気迫を思い出すことで乗り越えることができ、今もその気持ちを大切に持ち続けています。高校生である皆さんの夢は何でしょうか？僕は皆さんに夢はなるべく大きく持ち続けて欲しい

皆さん初めまして、私は今年度から駒大高校数学科に於いて主に三年生の授業を担当させて頂きます浅野と申します。私は昨年度まで筑波大学に於いて大学院生活と中学高校にて数学教育を実践し三年目を迎えます。と言いましても私自身まだまだ自己研鑽の日々であります。私が最初に抱いた、皆さんの印象はとも

皆さん初めまして、私は今年度から駒大高校数学科に於いて主に三年生の授業を担当させて頂きます浅野と申します。私は昨年度まで筑波大学に於いて大学院生活と中学高校にて数学教育を実践し三年目を迎えます。と言いましても私自身まだまだ自己研鑽の日々であります。私が最初に抱いた、皆さんの印象はとも



と願います。皆さんの年齢は無限の可能性を秘めている分、自由度も大きいと思えます。もうやりたい事が決まっている人はそれに向けて邁進され、そうでない人は、今という若い間の機会を無駄にすることなく、燃やし続けて下さい。若いということは、何にも勝る貴重な財産です。という言葉最後にします。

(数学科)

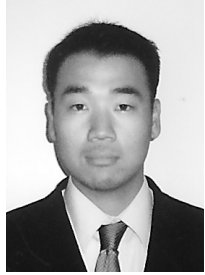
非常勤講師 横山 勇  
日本体育大学体育学部武道学科卒



初めまして、武道(柔道)を担当することになりました横山です。駒大高は、かけがえない青春時代を送った母校であり、柔道部員として柔道に私の全てを懸けた場所でもあります。その母校に職を得たという誇りを持ち、粉骨砕身で職務を全うしていきたいと思っています。

高校卒業後は、駒澤大学経営学部経営学科へ進学し、無事に卒業、その後体育や柔道の専門知識を得るために日本体育大学体育学部武道学科へ編入学しました。最初は年齢の違う学生と共に受講するのに違和感がありましたが、教員を目指す学生など同じ志を持つ学生と知り合い、その交友関係は私の大きな財産となりました。

この四月から非常勤講師として勤務していますが、学生時より柔道部のコーチとして

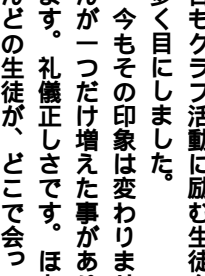


非常勤講師 西山 翔  
学習院大学文学部英米文学科卒

携わっているので、一日の終わりは普段と変わりなく生徒と流した汗でびっしょりになっています。教科の柔道では、助手として五年間勤めていますので経験を活かし、生徒が遅く成長するように授業を展開していきたいと思っています。柔道の最終的な目標は、自己の確立です。心身を鍛錬し、健全なる精神と健康な身体を育むことが自己確立への道であると考えています。そして、柔道の理念の一つに「知行合一」があります。それは、学ぶことと行うことは一つであるという学校の教育理念である「行学一如」と理念が一致しています。

我が校にとって武道教育は大切な役割を担うべきものであると私は考えます。武道(柔道)の時間では、生徒が柔道を通し礼節や人への思いやりを学び、感動を味わい、生徒にとつてかけがえない時間を提供したいと思っています。若輩者ですが、誠心誠意、生徒のために心血を注いでまいりたいと思います。諸先輩方には今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。(四十五期・保健体育科)

平成十五年四月より、英語科の非常勤講師として本校に勤務しております。私は、も



とは東京の田端の生まれなのですが、高校時代は千葉の木更津にある高校で過ごしておりました。ですので、駒大高生に対する第一印象は、都会の高校生だなーと感じました。(良くも悪くも...) 駒大高生の良いところは、非常に元気が良いということだと思えます。廊下を歩いていても、すれ違う度に「こんにちわ」と元気な挨拶をしてくれます。挨拶は人間関係を築くうえで、最も重要なことです。世間は暗い話題ばかりですが、この長所を生かした明るい学校づくりのお手伝いができればと考えています。(英語科)



非常勤講師 川辺 啓  
早稲田大学第二文学部文学言語系専修卒

早いもので駒澤大学高等学校に奉職してから三ヶ月が過ぎました。初めて駒大高校に来て最初に受けた印象は活発で元気のある高校だと感じました。生徒の明るく大きな声や笑い声が校舎に溢れ、昼休みには汗だらけになってボールを追いかける、放課後や土曜日もクラブ活動に励む生徒を多く目にしました。今もその印象は変わりませんが、一つだけ増えた事があります。礼儀正しさです。ほとんどの生徒が、どこで会ってもしつかりとした挨拶をしてくれます。この良い所も生徒に持ち続けてほしいと思っています。



非常勤講師 菅谷 正和  
駒澤大学文学部英米文学科卒

生徒達のよりよい未来の為に微力ながら協力させていただきます。(英語科)

中学生からの先生になる夢が実現し、母校で働かせていただけることに、私は大変幸せだと感じています。私は一・二年生を担当しています。一年生は特に勉強ができていないと感じます。授業中、色々な考えをぶつけてきます。しかし、中学生っぽい行動をすることが多いです。二年生は考えよりも行動が先にでてしまつ。そして、個性豊かです。一人一人を見てみると一年生も二年生も興味深いです。また、私は吹奏楽部の副顧問を担当させていただいています。先日、夏合宿に参加しました。部員達は練習に懸命に取り組み、人間関係や組織づくりに苦勞しているようでした。が、一週間の合宿を終えて、顔色がかわつたと思います。私は授業や他の学校生活を通して、生徒の成長をみることをとても楽しみにしています。たくさんさんの生徒と接している分、生徒とより近い存在でありたいです。生徒が人として立派な成人になるよう努めていきます。(四十九期・英語科)

### 私の趣味⑩ 「達人への道」

非常勤講師 小山 信太郎



私は毎日楽しく過ごしためならば、どんなことでも好奇心を持って飛びつく「驚き」大好き人間です。その「驚き」大好き人間の私が今熱心に取り組んでいるもの、それは空手です。空手の稽古を通して私はいろいろなことを学びました。まずは、空手と私の出会いかから話をしたいと思っています。

空手を始めるまで、私は人を殴ったことがなく、逆に殴られることの多いかわいそうな人間でした。そんな私は、入門当初「驚いた」のは、人を殴って褒められるということでした。日常、人を殴って褒められることはありません。その一瞬たりとも気を抜くことは許されない武道の世界に私は魅せられてしまったのです。それ以降、精神的にも肉体的にも日々強くなっていくのを自分で感じる事ができました。そして、練習を積み重ねていくほどに自分ももっと強くなれる可能性があるのだということも感じたのです。ですから、稽古が苦しい時でも自分が強くなるためなんだと考えるとその苦しさも楽しさに変えることができました。その結果、習いはじめて一年で関東大会の初心者部門で優勝し、その次の年には、上級者の部でも優勝することができました。

私は空手によって、自分自身を大きく変えることができただけに思われます。それはただ単に強くなるということだけではなく、人生観も変わったように思っています。これは入門当初の話ですが、私の父親くらいの大先輩が何も言わず、玄關に履き捨ててある靴をそろえているのです。その先輩が私にこう教

えてくれました。「靴を並べ整えることによって、心も整います。道場に入ってから最初に目に入るのが玄關です。靴がそろっていることによって、いい気持ちで練習にのぞむことができます。また帰る時も、心迷うことなく自分の靴を履くことができます。」 私はこの言葉にとっても感銘を受けました。その時から、私も玄關で少しでも靴が乱れているのに気が付いたら、そろえるよう心掛けるようになりました。武道は人間をつくるという言葉ですが、まさにその通りだと思います。身体的強さには限界がありますが、精神的な強さには限界がありません。本当の強さとは自己の目的に向かって努力を継続できることであると私は思います。人と戦い、人を制することにより、最大の敵は自分自身であると気付くようになりました。昨日の自分より今日の自分、今日の自分より明日の自分と、少しずつ自分を成長させる。常に相手は今の自分なので、毎日毎日が自分との戦いであり、それを継続させる力がどんな道でも最大の才能になると思っています。

今から五年前、アメリカ滞在中にヨルダン人の友達から、「お前の帯の色は何色だ?」と尋ねられました。私はそれまで武道というものに携わったことがないので、「帯」というものは持っていない。」と答えると、彼らは形相を変え、私に向かって「お前は日本人ではない。黒帯を持つていない日本人はいないぞ。」と怒鳴るので、外国人には日本男児全てが一流の武道家だとイメージを持って

いる人が多く、それまでも私は同じ質問を何人かの外国人から受けてきました。しかし、この時のヨルダン人のように私の国籍までも強く否定する人はいませんでした。今から思うと短絡的ですが、直情径行な私は、日本男児として黒帯を持つていべきなのかと考え、帰国後、すぐに空

空手を通じて学んだことを、これからの自分自身の人生に、そして社会のために役立てていきたいと思っています。(四十五期・英語科)



# 恩師を訪ねて

## 閑中忙あり

神谷道倫



『吾輩は猫である』の中で美学者迷亭が苦沙弥先生宅に静岡の伯父を連れてくる場面がある。そこで迷亭が自らの近況を、閑中自ずから忙あり」と言ったところ、謹厳な伯父には洒落が通じず、そのような成句はないと粗忽者扱いされてしまうところがある。

むろん迷亭ほど太平楽な毎日を送っているわけではないが、退職して三年余、おおむね太平無事を楽しんで日々を過ごしている。

退職後のささやかな目的の一つに、鎌倉の史跡をできる限り網羅的に歩いて訪ねたい、ということがある。

若い頃、鎌倉時代の女流日記について調べていたことがあった。筆者の女性史は鎌倉に下り、社寺の参詣はもとより時の将軍惟康親王の更迭という政治上の事件にも遭遇したり、鎌倉を舞台に興味深い場面が多い作品であった。その後『平家物語』の翻刻・注釈作業をする一員であった時期もあり、それらの仕事を通して鎌倉は気になる場所の一つとなっているのである。

退職を機に興味的な立場ではあるが史跡や歴史的事実、

ことを繰り返し返している。退職を控えてパソコンの習得も心がけたことの一つである。必要にせまられてさまざまなケースに対応するのが最も手取り早い習熟法なのであるが、退職者にとって必要にせまられる文書などほとんどない。そこで古典の作品を打ち込んで読書も兼ねてパソコンに慣れることにした。昔から「読書写書に如かず」といって、パソコンを筆がわりにして読書を実行し、一挙兩得をねらったのである。これで、『承久記』の異本や『義経記』など鎌倉がらみの十二作品を読み終えた。

今夏は駒大苫小牧高が甲子園出場を果たしたが、毎年夏の高校野球はきるだけ応援することになっている。選手活躍ぶりやOBとの再会もまた楽しみの一つである。

浮世離れのした趣味的生活の報告のようになってしまったが、まだ継続している仕事もある。駒澤大学に週一回出講していることで、その点ではいまだに現役なのである。休暇中は別としてその準備や必要な資料の収集などが実は一週間の生活の基調となっている。学生に配布する資料の作成には高校の機器設備を利用することが多く、先生方のお世話になつてもいる。

高等学校も今年から新教育課程となり、世間ではその目玉(特に小・中)の一つである総合学習についての論議も盛んである。これは知育に偏らない体得の原理に立つ学習という点で重要な意味を持つものではあるが、それだけに目標設定が肝心で、それが曖昧だと中途半端なものに終わってしまう虞れが多分にある。

単元学習の実践(総合学習の二本と言へべきもの)で著名な大村はま氏が九十七歳の高齢にもかかわらず当時の教え子らと今年の三月『教えることの復権』(筑摩新書)という書物を公刊した。総合学習・自ら解決する力・基礎基本の学力・人づくりなどいま話題の教育問題について考えるための示唆を与えてくれる内容で読みやすくもある書物である。

教育問題は肩に力を入れ過ぎると逆に弊害をもたらすことにもなりかねないが、平素から適切な判断材料をもとに皆が地道に考え、将来のためによりよい選択をして行く観点を養うことは大切なことと思われる。(15・8・15 記)

(昭和三十四年十月国語科教諭として奉職。平成十二年三月退職)

今流に言えばオタク老人ということか。自分流に言えば市井隠遁である。今はただ心の欲するところに従って日々を送っている。老後の生きかたについての情報はあれこれ多いけれども、たいして気にもとめず、起きたい時に起き、寝たい時に寝る、食べたい時に食べ、飲みたい時に飲む、という自堕落な生活を貪っている。努力とか頑張るとかいう言葉は今の自分には死語である。

こういう生きかたでありながら、結果的にはそれほど不規則な生活になつていないのが面白いところである。朝は五時か六時には起きて朝食の仕度をする。味噌汁は必ず煮干しでだしを取って作る。おかず二品程度を作つて食卓に並べて仕度は終了。庭に出て池の懸樋に水を通し、鯉に餌をやりながら家族が食卓に着くのを待つ。そして一緒に食事を摂る。午後は夕食の献立を考え、おおよそ決めてから買物にでかける。夕食の仕度にはだいたい一時間を要することが、二時間、三時間をかけることもしばしばある。

これが日々の生活の基本になつている。他人から見たら同じことの繰り返しでつまらないだろうと思われながらも知らないが、自分にとっては楽しいことこの上ない。三年間続けているが、飽きることはまったくない。

料理というものは、同じ物はなかなか作れないことを身に泌みて感じている。現役中の授業と相通するものがある。毎日同じことの繰り返しのように見えて、実際は十回のうち一回くらいしか自他共

に認めるようなものではないので、日々挑戦という感じである。

庭の手入れと菜園の仕事も飽きることはない。池の周囲を巡るように御影石を敷き詰めた小さな遊歩道を巡回するのも日課の一つである。葱、胡瓜、苦瓜、唐辛子などの生育状況を見るのも楽しみだし、池に落ち込む懸樋の水の音は飽きることがない。

旅は年に四回くらいはしている。昨年は四国を巡つた。瀬戸内海に浮かぶ大三島にある大山祇神社は、小林秀雄の『平家物語について』の評論にも出てくるので、是非とも行ってみたい所であった。宝物殿の甲冑、刀剣類を目のあたりにした時には、工芸品でありながら実用品だなぁ、と実感した。もっと早く来ればよかったと少し残念に思った。

平々凡々、何の変哲もない老後の生活ではあるが、残り少ない人生を、気ままに、心の赴くままに、悠然として南山を見ながら過したいと願っている。

(昭和三十九年四月国語科教諭として奉職。平成十二年三月退職)

同窓会・創立五十五周年  
同窓会は平成十七年に創立五十五周年を迎えます。  
記念総会・式典の日時・場所等の概要が決定しました。  
日時  
平成十七年六月十一日  
(土曜日)  
午後四時より  
場所  
母校・各施設にて  
会費  
無料

# オタク老人のつれづれ

中村 強



この四月に奄美大島にでも旅しようと思ひ、故郷の鹿児島に帰った。その折、子どもころからの友人に出会った。彼は定年退職後のつれづれを嘆いていた。仕事を離れて数年も経つ今でも、忙しく働いていた現役時代のことが忘れられないというのである。このようなことはよく聞く話で、彼だけのことではな

いようだ。現役時代を引きずって悶々と日々を過ごす人あり、公園のベンチに毎日通う人ありで、無聊をかこつ人は多いようだ。一方では新しい生きかたを見出して積極的に社会に参画している人あり、この時とはばかり趣味三昧の人ありで、定年退職後の生きかたは様々である。

自分の場合はというと、これは空想であり、単なる憧れかも知れないが、退職の日を境に今までの世間的な交わりを絶つて、別の世界に生きようと思ひ、決意していた。自分は生来の怠け者なの、精神

この四月に奄美大島にでも旅しようと思ひ、故郷の鹿児島に帰った。その折、子どもころからの友人に出会った。彼は定年退職後のつれづれを嘆いていた。仕事を離れて数年も経つ今でも、忙しく働いていた現役時代のことが忘れられないというのである。このようなことはよく聞く話で、彼だけのことではな

いようだ。現役時代を引きずって悶々と日々を過ごす人あり、公園のベンチに毎日通う人ありで、無聊をかこつ人は多いようだ。一方では新しい生きかたを見出して積極的に社会に参画している人あり、この時とはばかり趣味三昧の人ありで、定年退職後の生きかたは様々である。

自分の場合はというと、これは空想であり、単なる憧れかも知れないが、退職の日を境に今までの世間的な交わりを絶つて、別の世界に生きようと思ひ、決意していた。自分は生来の怠け者なの、精神

この四月に奄美大島にでも旅しようと思ひ、故郷の鹿児島に帰った。その折、子どもころからの友人に出会った。彼は定年退職後のつれづれを嘆いていた。仕事を離れて数年も経つ今でも、忙しく働いていた現役時代のことが忘れられないというのである。このようなことはよく聞く話で、彼だけのことではな



# 受験案内

## 生徒募集委員・教諭 井上 保広

バブルがはじけデフレが深刻化し、先行き不透明な現在、時代は大きく変わったといえよう。そして、人々の価値観や意識にも大きな変化が見られるようになった。とりわけ少子化現象は、私立学校にとっては大きな打撃であり、楽観が許せない状況である。本校においても、その影響を受け、受験者の減少が目立つようになり学力レベルも伸び悩んでいる現状である。

こうした社会の変化やニーズに十分対応するために、また駒澤大学をはじめ他大学受験にも積極的にチャレンジできるように生徒を育てるために、新カリキュラムの検討を続けてきたが本年度より、そのスタートを切った。

一年次は、芸術科目以外はすべて共通履修で、数学英語は学習効果を高めるために習熟度別クラス編成をしている。土曜日は隔週休日制で(第二・第四土曜日が休日)授業のある第一、第三土曜日は各種学習テスト(漢字、文法検定、英単語、数学)と総合学習にあてている。総合学習は自分で解決する力、生きる力を養うことを目的にプログラムを設定している。また、授業のない第二、第四土曜日は大学受験講座や、発展および基礎学力養成講座を受講することができるようにしている。

二年次からは進学コースと受験コースに分かれ、進学コースは主に駒澤大学への推薦入学をめざすコースであり、受験コースは文系と理系に分かれて他大学への現役合格をめざすコースで、個々のニーズに合うように大幅な教科選択制を取り入れ、週六日間のフル授業となる。

駒澤大学への推薦入学は高校三年間の学業成績と二年次(三月)と三年次(九月)に実施される校内学力試験の高点順に大学の定める人数の範囲内で選ばれる。昨年度は短大を含め八十%近くの生徒が駒澤大学に進学している。また、駒澤大学の推薦を受けながら国立大学の併願受験もできる。その他、成蹊大工学部、芝浦工大システム工学部、東京電機大情報環境学部、東洋大工学部などの理数系の学部や山野美容芸術短大、駒沢女子短大保育科など多くの指定校制度もある。

なお、十六年度の入学試験要項は下記のようになりますが、同窓生の子女および弟妹につきましては優遇扱いがありますので、詳細につきましては同窓会事務局(高木)までお問い合わせ下さい。

(数学科)

## 学費と説明会のご案内

### ■学校説明会・見学会について

本校の教育目標・特色等の紹介と平成16年度の入学試験実施要項についての説明をします。

#### ■学校説明会

- ①10月11日(土)午後2時~
- ②11月8日(土)午後2時~
- ※体育館にお集まりください。

#### ■学校見学会

- 9月以降の毎週土曜日
- 午後3時~
- ※会議室にお集まりください。

#### ■駒大高祭

- ①11月2日(日)
- ②11月3日(月)
- ※入試相談コーナーがあります。

詳しくはテレホンサービス・ホームページをご利用ください。  
 テレホンサービス……………0180-99-3579  
 ホームページアドレス……http://www.komazawa.net/

### ■1年間の学費総額について

学費は4月・9月・1月の三期に分納していただきます。学費は「学校納入金」と「代理徴収金」から構成されています。なお、平成16年度の学費決定は10月下旬になります。参考までに平成15年度の学費を掲げておきます。

| ① 学校納入金 |          | ② 代理徴収金      |          |
|---------|----------|--------------|----------|
| 授業料     | 387,000円 | 校外学習費        | 65,000円  |
| 実験実習費   | 2,000円   | 施糧会(PTA)入会金  | 10,000円  |
| 維持費     | 89,000円  | 施糧会(PTA)会費   | 45,000円  |
| 小計      | 478,000円 | 校友会入会金       | 5,000円   |
|         |          | 校友会会費        | 7,200円   |
|         |          | 学校保健センター加入費等 | 15,260円  |
|         |          | 小計           | 147,460円 |

**学費合計(①+②) 625,460円**

- ◎2年次の実験実習費は12,000円(参考:平成15年度)です。
- ◎代理徴収金は、校外学習等に関わる実費です。諸般の事情により一部変更する場合があります。
- ◎上記の他、教育施設・環境整備募金として任意の寄付金(1口10万円以上)を入学後にお問い合わせいたします。

## 入学試験要項

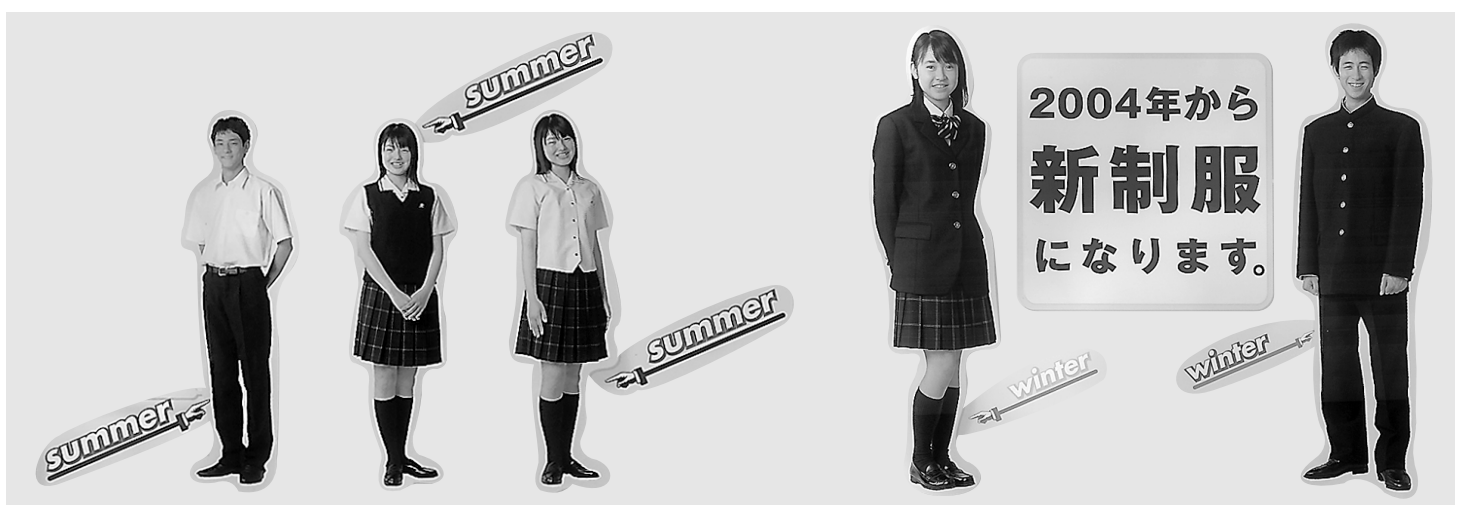
### 推薦入試

- 課程・学科: 全日制・普通科
- 募集人員: 男女240名
- 出願資格: 平成16年3月公立中学校を卒業見込みの者で、本校を第一志望とし、中学校長の推薦する者。
- 出願期日: 平成16年1月19日(月)・1月20日(火)
- 受付時間: 午前9時~午後4時
- 推薦基準: (1)推薦  
3教科が10の場合は9教科34以上  
3教科が11の場合は9教科32以上  
3教科が12の場合は9教科30以上  
※①3教科は国・数・英の評定合計  
9教科は全教科の評定合計  
②9教科中に1の評定がなく、かつ3教科中に2の評定がないこと  
③適用範囲地域は、東京都および神奈川県・千葉・埼玉の各県の国・公立中学校在籍者  
(2)併願推薦  
9教科評定合計が36以上  
※①9教科中に1・2・3の評定がないこと  
②適用範囲地域は、東京都および神奈川県・千葉の各県の国・公立中学校在籍者  
③併願校は国・公立の高等学校に限る
- 出願手続: 下記の一括して出願期日以内に本校窓口へ提出・納入してください。  
(1)入学願書(本校所定の用紙)  
(2)中学校長調査書(本校所定の用紙)  
(3)受験料22,000円
- 入学試験: 平成16年1月22日(木)午前9時開始  
作文(45分)  
面接(志願者本人のみ)
- 合格発表: 平成16年1月23日(金)午前10時~午前11時  
事務室窓口において受験票と引換により発表
- 入学手続: 平成16年1月26日(月)まで  
合格者は上記の期日に入学金及び施設費を銀行より振込納入してください。  
(1)入学金250,000円(参考:平成15年度)  
(2)施設費150,000円(参考:平成15年度)  
上記期日に手続を完了しないときは、入学資格を失います。また、一旦納入された納付金は、事情の如何に関わらずお返しいたしません。なお併願推薦の場合は、公立高等学校の合格発表後の納入となります。

### 一般入試

- 課程・学科: 全日制・普通科
- 募集人員: 男女240名
- 出願資格: 平成16年3月中学校卒業見込みの者(中学校卒業の者含む)
- 出願期日: 平成16年1月26日(月)~2月5日(木)(日・祝日を除く)
- 受付時間: 午前9時~午後4時(土曜日は正午まで)
- 出願手続: 下記の一括して出願期日以内に本校窓口へ提出・納入してください。  
(1)入学願書(本校所定の用紙)  
(2)中学校長調査書(公立高校受験用の用紙・様式)  
(3)受験料22,000円
- 入学試験: 平成16年2月10日(火)午前9時開始  
国語・数学・英語(各50分)  
面接(志願者本人のみ)
- 合格発表: 平成16年2月11日(水)午前10時~正午  
本校において掲示により発表
- 入学手続: 平成16年2月12日(木)  
合格者は上記の期日に入学金及び施設費を銀行より振込納入してください。  
(1)入学金250,000円(参考:平成15年度)  
(2)施設費150,000円(参考:平成15年度)  
上記期日に手続を完了しないときは、入学資格を失います。また、一旦納入された納付金は、事情の如何に関わらずお返しいたしません。但し、国・公立高等学校に入学を希望する者については、申し出により入学金・施設費の全額を公立高等学校の合格発表後にお返しします。返還の手続については本校入学試験の合格発表の時に指示します。
- その他: 単願制度および第一志望優先の扱いについては在学する中学校の先生にご相談ください。なお、曹洞宗寺院徒弟には、優先入学の制度が設けられています。また、駒澤大学附属岩見沢高校を第二志望でご希望の場合はご連絡ください。

母校「受験」優遇制度のお知らせ  
 受験生をお持ちの同窓生の方々に、母校に学んだ縁を大切に、子弟を母校に学ばせたいとの考えがありましたら、一定の基準はありますが優遇措置がありますので、同窓会事務局(高木)までお問い合わせ下さい。



特別講座

# 「水泳教室」

教諭・小川 智子



土曜日の三、四時間目を利用して、二年生を対象に水泳教室を開いています。本校にはプールがないので世田谷区総合運動場温水プールにて、男女十名で行っています。水の中に入るので、事前に生徒

の体調を聞き、無理のないよう授業を始めます。受講者の中には四種目泳げる生徒、バタフライは苦手、平泳ぎしか泳げませんという生徒、中にはバタ足しか出来ませんという生徒もいますが、毎回元気づく水しぶきをあげながら、一生懸命泳ぐ生徒達に勇気と感動をもらっています。特に泳げなかった種目を練習して、25M完泳した時の生徒の目は生き生きとして、「やれば出来るんだ」という満足感にみちあふれています。同窓生の皆さん、世田谷区総合運動場温水プールで、黄色いスィムキャップの集団を見つけたら、ぜひ声をかけて下さい。

# 『囲碁将棋部』

教諭・馬場 捷美

囲碁将棋部は、現在七名の部員で活動しております。全員が囲碁部門で将棋部門は、一名も在籍しておりません。有段者が二名おりまして、今年度の全国高等学校囲碁選手権の東京予選では、本選には出場できませんでしたが、第一グループでは、開成高校・国学院久我山等を相手に、三位に入賞し、おおいに気を吐きました。現在、東京では、強豪校といえは、麻布・開

成・筑波など受験校ばかりですが、そういう学校になんとか、一歩でも近づけるように、一所懸命頑張っていきたいと思えます。かつては、全国大会で四位になった時の部員であった安藤君(三十五期)に現在指導していただいておりますので増々、腕が上がると思えます。これからも、応援よろしくお願い致します。(地歴科・囲碁将棋部顧問)

# 校友会活動報告

関東大会出場

ソフトテニス部

団体  
個人

三年B組 新木佑輔  
二年A組 丸木享範

五月三十日(金)～六月一日(日)

埼玉県狭山市智光山公園テニスコート

バレーボール部  
五月三十日(金)～六月一日(日)

栃木県宇都宮市体育館

体操競技部  
女子個人

三年E組 阿比留夕貴  
五月三十日(金)～六月一日(日)

千葉県千葉市総合スポーツセンター

剣道部  
女子団体

男子団体  
男子個人

三年E組 高澤篤司  
六月六日(金)～八日(日)

東京都渋谷区代々木・東京体育館

ゴルフ部

団体  
個人

三年J組 白石和正  
七月二十五日(金)・二十六日(土)

千葉県長生郡睦沢町房総カントリークラブ

インターハイ出場  
ソフトテニス部

個人  
三年B組 新木佑輔  
二年A組 丸木享範

八月六日(水)～八日(金)  
長崎県長崎市総合運動公園テニスコート

国民体育大会出場

ゴルフ部

三年J組 白石和正  
九月十三日(土)・十五日(月)

静岡県袋井市葛城ゴルフ倶楽部

ソフトテニス部

三年B組 新木佑輔  
二年A組 丸木享範  
二年I組 澤田 学  
二年K組 吉田真人

十月二十六日(日)～二十九日(水)  
静岡県静岡市草薙テニスコート

体操競技部  
二年B組 久保田将弘  
十月二十六日(日)～二十九日(水)

静岡県静岡市ツインメッセ

全日本高等学校吹奏楽大会  
連盟会長賞受賞  
(次年度出場権獲得)

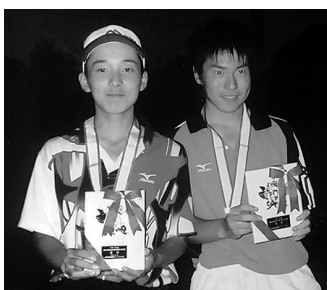
八月三十日(土)  
神奈川県横浜市神奈川県民ホーム

全国吹奏楽コンクール都大会  
金賞受賞!! 全国大会出場

九月七日(日)  
東京都杉並区・普門館

NHK杯全国高校放送コンテスト出場  
視聴覚研究所  
七月二十二日(火)～二十四日(木)

東京都渋谷区代々木・NHKホール



(2A 丸木 ・ 3B 新木)

# 吹奏楽部

全国吹奏楽コンクール全国大会出場

十一月二日(日)

東京都杉並区・普門館

課題曲「松浦伸吾作曲  
マーチ「ベストフレンド」

自由曲「P・ウィリアムス作曲  
「ラプソディ」

クラス会・OB会・OG会の幹事の方へ  
同窓会では同窓生の親睦・交流を目的に、クラス会やOB会・OG会の開催に一万円の助成金を支出しています。  
詳細や申込は同窓会事務局までご連絡下さい。  
多数のご利用をお待ちしています。

# 編集委員会

「同窓新報」編集委員会11名  
委員長・荒井 伸夫(20期)  
委員・原 正男(1期)  
真田 治孝(5期)  
高木 恒一(16期)  
妻倉 由明(16期)  
日吉 明廣(19期)  
馬場 元司(31期)  
石川美由紀(48期)  
石井 瑞希(51期)  
木村 紀子(52期)  
村 真理子(53期)

お願い  
次号に会員のみなさんのお便りを載せたく原稿をお待ちします。

# 訂正

第三十六号私のひみつ「Jリーグをご存じですか?」の記事筆者名が「加納哲哉」とあるのは「大木誠」の誤りでした。訂正します。

これにより会員の皆様にご迷惑をお掛けしてしまい大変申し訳ございませんでした。今後このような事が無いように十分に注意するとともに、再発防止に取り組みたいと考えております。

会員の皆様には、何卒ご理解を頂くとともに、重ねてお詫び申し上げます。

編集委員長 荒井

# 八転七起

小生、最近物忘れが多くなった。勤務中でも相手と話していて、何の事でも気にしながらが多くなった。その場ではそうだが、時間が経ち、アツアツかと思いつくこのパターンが最近の悩みである。

物忘れにも病気から起こるものと、年から起こるものとに分かれている。病気の方はお医者さんに診てもらおうとして、小生のほうは後者のほう。なぜなら、後から思いつくなら年のせいだから仕方ないと元氣付けられる所以である。

人間の本能の中に「取捨選択」機能があるという。自分の都合の良いことや必要なものとか何しろ優先順位を勝手につけて記憶する身勝手な機能。年をとると本能が幅を広がって、学習で得たものを「取捨選択」してこれが物忘れの原因だとしたら問題。年をとることは仕方ないが、この物忘れを止める何か解決策はないだろうか。指先を使って脳の神経を刺激する事が良いと、効果は八割。残りはおき

らめて自分にあつた方法を探せと聞いたことがある。大雑把な説明だが、これも「取捨選択」の一つと思つて考えて生きて行きたい。

今年度、同窓会役員会が改まり新会長の下、新たに活動が進む。「同窓新報」も新たな試みを模索している。会員各位の情報伝達の間として皆さんからの情報をより多く掲載したいと思う。ぜひ、情報をお寄せいただきたい。この「同窓新報」を心待ちにするよつな紙面を作り続けたい編集局からお願い。(あらい)